第84回日本内科学会講演会（1987年）
シンポジウム 受容体と内科疾患*

司会 東京大学医学部第四内科 尾形悦郎

司会 京都大学医学部第二内科 井村裕夫

司会者のことば

生命現象の一環としておこる反応には、刺激因子との間にみられる特異性（specificity）があり、さらにそれに対し調節機転が組み込まれているという特徴がある。これに関与する機構の中心をなすものが受容体であり、それに連動する諸構造である。受容機構の中身はブラック・ボックスとしておいていたとしても、それぞれの構成ユニットに異常が起これば当然各種細胞機能に障害が起こり、しいては各種疾患の原因となるであろうということとは以前から推測されていたことであった。受容機構に関与する諸構成因子は近年急速に発展した分子生物学、細胞生物学あるいは免疫学の諸手法を応用することにより、現在ではそれぞれがかなり具体的に物質的基盤のもとに機能的解析がなされつつある。これら手法はさらに臨床医学の分野にも導入されつつある。そこで受容機構障害は、今や観念上の理解にとどまるものでなく、実

地臨床の上で実際に問題となる病態として我々にとって一層身近なものとなって来ている。いくつかの疾患は受容体およびそれに関連する機構の異常の理解なくしては今日的なレベルで正確な診断を下し、また治療計画を立てることは不可能となっている。そこでみられる異常は遺伝的なものと自己免疫が関与するものが主となる。また受容機構諸因子はいくつかの薬物と相互作用を示し、この見地から新たな治療医学開発の研究対象ともなりつつある。

本シンポジウムでは受容体およびそれに関連する機構と疾患との関係につき概要を解説するとともに、内科医が遭遇する代表的な6疾患群につき、それぞれの領域における第一人者から、新しい進歩を臨床家としての眼から俯瞰していただくこととした。

*本シンポジウムは1987年4月2日、東京都港区芝公園3-3-1 東京プリンスホテルにて行なわれた。

Symposium on receptors, receptor abnormalities and diseases.

Moderator: Etsuro OGATA, Prof., The Fourth Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, University of Tokyo, Tokyo

Moderator: Hiroo IMURA, Prof., The Second Division, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kyoto University Kyoto